



ポ プ ラ

学校教育目標「志に生きる」やる気 おもいやり たくましさ
生徒数 546名 教職員数 39名

陰徳あれば陽報あり

校長 結城 正弘

5月28日(日)に久喜中学校第71回の体育祭が、青空の下盛大に行われました。当日は、来賓の皆様、保護者の皆様や地域の皆様に御臨席たまわり、また、応援していただき、最高の体育祭となりました。練習の時と比べ、入退場にもメリハリがあり、一人が皆のために、皆が一人のために力を出して頑張りました。この協力とメリハリをこれからの生活に是非生かして行って欲しいものです。

また、学校総合体育大会が始まりました。今まで練習してきた成果を出し切って、自分のために、仲間のために、そして、久喜中学校のために全力を出し切ってください。

さて、いつ頃の事か覚えていませんがTV番組で見た内容について書きます。1972年ミュンヘンオリンピック大会の100m男子平泳ぎで金メダル、200m男子平泳ぎで銅メダルを取った田口信敬(たぐち のぶたか)選手の話です。

番組の中で、田口選手は次のように言っていました。「オリンピックのファイナリストになれば誰が金メダルになってもおかしくはない。実力の差はない。しかし、金メダルになる人間は、いつも金メダルになる。実力差がないのに不思議とそうなる。実力以外の何かがそうさせるとしか考えられない。オリンピック選手になってから、どうしたらこの『運』というものを身に付けることができるのか考え実践しました。そして、金メダルを取りました。」

田口選手は、合宿所での生活について次のように話していました。それは、一言で言うと「善(よ)い行いをする」と言うことです。ただし、田口選手がすごいのは、「人に知られないように善い行いをする。」という事だったのです。田口選手は、毎日誰にも知られないように合宿所の皿洗いを続けたり、トイレ掃除を続けたりしたそうです。そして、落ちていたゴミも人知れず拾ったそうです。自分のできる限りの練習を積んだ上に、さらに、できることはないかと考えた時に、上述のような考えに至ったのです。人知れず善行をすることを『陰徳(いんとく)』と言います。(陰とはかげという意味で、徳とは善い行いのことです。)善い行いをするのは当然素晴らしいことですが、人が見ている時だけでなく、むしろ人が見ていない時こそ善い行いをするのが大切なのです。人が見ていれば、善い行いに対してほめられたりします。人から直接「ありがとう」と言ってもらえるなどのごほうびがもらえます。陰徳の場合は、誰も見ていませんから、直接ほめられることはありません。しかし、陰徳を積み重ねれば、きっと善いこと『陽報(ようほう)』が、その人に起こるはずで、陰徳によって得られるその人の心の充実が、その人が持っている力以上のものを引き出すのではないかと。

ぜひ、人が見ているとか見ていないとかにかかわらず、善いと思うことを率先して行ってほしいものです。きっと、陰徳を積んだ皆さんの『心』は豊かで、温かく素晴らしいものに育っていくことと信じています。